8月2日（日曜日）「ザカリヤへの御告げ」

【新改訳 2017】

ルカ　　1•5－25

「御使いは彼に言った。『こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を生みます。名をヨハネとつけなさい。その子は‥‥‥主の御前にすぐれた者となるからです。‥‥‥』」（13－15節）

　パブテスマのヨハネの誕生に関する告知です。この時点では、ザカリヤは告げられたこの子がパブテスマのヨハネになるとはまだ思っていなかったでしょう。自分たち老年の夫婦に子どもが生まれることさえ簡単には信じられず、御使いによってしばらく話すことができないようにされたほどでした。しかし、彼が務めを終えて帰宅した後で、妻はみごもり、大きな喜びに満たされたのです。アラブハムとサラの例を思い出します。

　ザカリヤ夫婦は子どもが欲しいと願ってはいましたが、主の先駆者となる子を下さいと祈っていたわけではないでしょう。これは、まったく神のご主権による選びと祝福でした。

　驚くべき祝福の主をほめたたえましょう。

～祈り～

主よ。あなたのご主権と選びの不思議を覚えさせられ、あなたを恐れます。どうぞ、あなたのおことばに従う者であらせてください。

【学びのために】

ザカリヤは祭司、妻のエリザはアロンの子孫、（祭司職の家系・名門）でした。とはいえ、この夫婦から、主の先駆者となるヨハネが生まれたことは、主のみこころによる一方的な選びでした。この夫婦にとっては、思いもよらなかったことでしょうが、彼らは受け入れました。